

まが玉の丘コース[探索歩道]

まが玉の丘（まがたまのおか）コースは、信州大学自然教育園（しんしゅうだいがくしぜんきょういくえん）からまが玉の丘まで登って下ってくる、1周 2.8 キロメートルの手軽な自然探索歩道である。所要時間は約 2 時間、標高差は 165 メートル。

コースの名前に付いているまが玉とは、石やガラス、翡翠で作られたコンマ形をした新石器時代（紀元前 1 万 4 千年～紀元前 350 年）の遺物のことである。この玉は装飾品および儀式の道具として使われていた。形が湾曲している理由は諸説あり、動物の歯や胎児や月を表したものではないかと考えられている。コースの折り返し地点にある丘は、上から見るとまが玉に似ている。

また、まが玉は日本の神話学や図像学においても重要な役割を持っている。古事記（日本列島の形成を神話に基づいて記述した、8 世紀に書かれた歴史書）の中では、まが玉は怒りに満ちた天照大神（あまてらすおおみかみ）を洞窟から引き出して、世界に光を取り戻すために使われており、その玉の 1 つが皇位の象徴の一部として現在も残っていると言われている。八尺瓊勾玉（やさかにのまがたま）の名で知られるこの玉は、天皇および一部の神官にのみ見ることが許されている。